

企画展 幾多郎と作太郎

同じ悲しみを抱きながら

平成 28 年 6 月 28 日(火)-10 月 30 日(日)

西田幾多郎と学生時代からの親友・藤岡作太郎。ともに幼い娘を亡くし、深い悲しみを共有しました。机を並べた青年期のほほ笑ましいエピソードや、名文『『国文学史講話』の序』が生まれた背景など、ふたりの交流について紹介します。

平成 28 年 7 月 18 日(月・祝) 13:30 ~ 15:30 / 哲学ホール

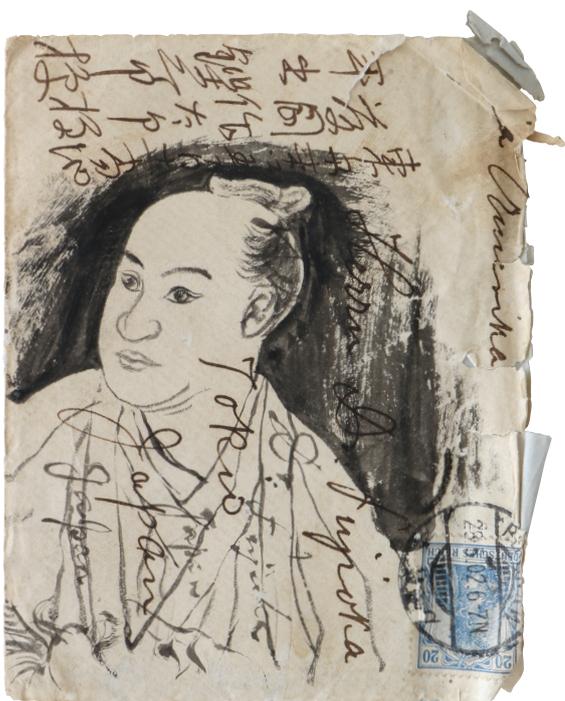
特別講演会 哲学館館長・浅見洋

*申込不要、要観覧料(展示室観覧チケットをお渡しします。)
*友の会会員は無料(会員証をご提示ください。)

幾多郎と

作太郎

彼は画が^えとても好きであった。ノートなどはいうに及ばず、書物にまでも画の徒書^{いたずら}きをする。私はクラスで彼と机を並べていたが、いつのまにか徒書きは私のノートにまで及んで来る。それは大抵馬琴の小説の挿画にあるような鬚^{まげ}を結った男や女の首であった。彼は美術学校へ入りたいといっていたこともある(西田幾多郎「若かりし日の東圃」)。



藤岡作太郎のいたずら書
受け取った手紙の封筒に書かれたもの
(石川近代文学館蔵)

石川県
西田幾多郎記念哲学館
Ishikawa NISHIDA KITARO Museum of Philosophy

〒929-1126 石川県かほく市内日角井 1
TEL (076) 283-6600 FAX (076) 283-6320
URL <http://www.nishidatetsugakukan.org/>
E-mail nishida-museum@city.kahoku.ishikawa.jp

開館時間 ■ 9:00 ~ 17:30 (入館は 17:00 まで)
休館日 ■ 月曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始、メンテナンス期間
観覧料 ■ 一般 300 円 / 高齢者(65 歳以上) 200 円 / 高校生以下 無料
交通アクセス

【車利用】北陸自動車道 [金沢東 IC] - 国道 159 号線 (約 20 分) / のと里山海道 [白尾 IC] - (約 5 分)
【JR 利用】金沢駅 - 七尾線 (約 25 分) - 宇野気駅 - 徒歩 (約 20 分) - 哲学館





藤岡作太郎（東圃）

明治3（1870）年
—明治43（1910）年

絵画史・文化史にも業績を残した国文学者。幾多郎と鈴木大拙（貞太郎）とともに「加賀の三タロウ」と呼ばれます。三人の中でただ一人四高を卒業し、東大国文学科に進学しました。学業に優れ、若くして東大助教教授となりますが、身体が弱く夭折し、幾多郎はその才能と人柄を惜みました。

平成28年

6月28日(火)-10月30日(日)

石川県西田幾多郎記念哲学館 2階展示室

企画展 幾多郎と作太郎

同じ悲しみを抱きながら

西田幾多郎が第四高等学校の生徒だった頃、彼のノートにいたずら書をした生徒がいました。喘息持ちで「まめ」と綽名されるほど体の弱く、小さい、その少年の名は藤岡作太郎。彼は、素晴らしい頭脳を持ち、楽々と難しい本を読み、美しい文章を書き、特に絵を描くことが好きでした。

作太郎は若くして帝国大学助教授となります。国文学者として、後に国文学の祖の一人といわれるほどの仕事をしましたが、幾多郎が京都大学へ赴任する直前の明治43年、39歳の若さで亡くなりました。詩歌や芸術に明るい国文学者の作太郎、ひたすらに哲学研究に専念しようとする幾多郎。一見、相容れないように見える二人ですが、若かりし日の幾多郎にとって、作太郎は頼りがいのある、また心の許せる友でした。

明治40年、幾多郎は五歳の娘を亡くします。その半年前、作太郎の娘も亡くなっていました。わが子の死、という彼らにしか分からない共通の悲しみを抱いて、二人は深く通じ合ったように見えます。幾多郎がその悲しみを書き残したエッセイは、作太郎の著書『国文学史講話』の序文として掲載されました。この企画展では、書簡や未発表原稿などを通して、このエッセイの執筆に至る経緯を追体験できるように紹介します。

まだ芽の出ぬ若き日の幾多郎と、国文学の俊才、作太郎のみずみずしい親交の軌跡をご覧ください。



■藤岡作太郎著
『国文学史講話』初版本
明治41(1908)年 開成館



■四高文芸サークル「我尊会」写真
明治23(1890)年6月
前列一番左が藤岡作太郎
後列一番右が西田幾多郎

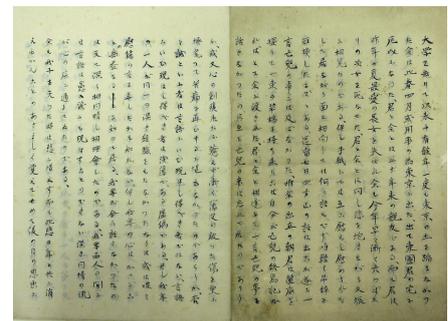


■西田幾多郎書「廓然無聖」

■娘を亡くした悲しみを綴った二人の直筆原稿



○藤岡作太郎「終焉記」原稿
(石川近代文学館蔵)



○西田幾多郎「未発表『国文学史講話』序文」原稿
(石川近代文学館蔵)

その他
展示資料

- 二人の最後の交簡
- 西田幾多郎宛の藤岡作太郎書簡
明治43年1月29日
- 藤岡作太郎宛の西田幾多郎書簡
明治43年1月30日 (石川近代文学館蔵)
- 夏目漱石に言及した西田幾多郎書簡
明治40年7月11日 (石川近代文学館蔵) など